

わいまた NEWS

ロイマタとはニュージーランド先住民のマオリ族の間で愛と友情の絆を表すお守りの名前です。

第5号

2007年5月20日

【発行】

特定非営利活動法人あい・ぽーとステーション

〒106-0031 東京都港区西麻布 2-24-25-509

TEL 03-6657-8539 FAX 03-3499-8539

E-mail: station@ai-port.jp

URL: <http://www.ai-port.jp>

子育て・家族支援者養成講座事務局

浦安市三級第二期

講座が開講 皆さんの後輩が誕生します！

五月九日、浦安市子育て・家族支援者養成講座(三級)第二期が開講しました。昨年度に引き続き、定員を超える申し込みがあり、新規受講生四十三名を迎えてスタートしました。

開講式には松崎秀樹浦安市長も駆けつけてくださいました。市長からは、第一期生の学びを深められていく様子が感想レポートを通して感じられたとお話いただき、第二期生の励ましと期待の言葉がかけられました。また、浦安市も組織改正の中で、子ども部が創設されたこと、今後の取り組みについても言及されました。高層マンション集合住宅などが圧倒的に多い浦安市において、「子育て支援」は最優先課題の一つとして力を入れている。浦安市は人口増加率全国一位ということで、発展の可能性を秘めている地域であると同時に、一枚皮を剥くと、初めて浦

ただきたい」とお祝いの言葉をいただきました。



▲開講式の様子

大日向代表からは、今、各行政や地域の様々な場面で子育て支援に取り組まれているが、子育て支援は箱ものを作るのではない、人を育てることであると確信している。人を養成するのは時間のかかる地味な仕事であるが、行政とNPO、市民との協働なくしては絶対にできないことであることを実践から痛感している。市を上げて子育て支援に取り組んでおられる浦安市と一緒にこの講座をやらせていただけることを何よりも嬉しく思う。一期生が書いてくださった感想レポートはあい・ぽーとの宝として事務局に眠っているが、二期生の皆さんのレポートも楽しみにしている。そして、「小さくとも光輝く市」に皆さんの

お力がさらに加わることを祈りつつ、私どもも懸命に講座をやらせていただきたいと思います、という激励の言葉がありました。

汐見理事は、日本の近代の歴史の中で、行政が率先して住民の子育てや家族の営みにかかわることにお金を払って、人を配置し、行政の名の下で人をサポートすることを独自に目標とした事業はほとんどないだろう。この養成講座は、日本の行政が市民のために何をやるべきなのかという一つの転換期となり、この事業がうまくいけば新しい社会づくりのために行政が従来ないようなスタンスでかわるきかけとなる。浦安市長がこの事業に懸ける思いを語ってくださったが、浦安市はちよつと面白いなと感じた。新しいまちづくりのために私たちは何ができるのか、積極的に食欲に学び、新しい浦安市の第二・第三の担い手になっていってほしい、と激励しました。



浦安市第四回バックアップ研修同時開催

浦安市子育て支援者養成講座修了生を対象にしたバックアップ研修が、去る五月九日(水)に三十四名の参加の下、開催されました。

講座は二部構成で行なわれ、一部は「手遊び・絵本・ペープサートなど」のテーマで、子育てひろば「あい・ぽーと」の星義輝保育士が、二部は「活動状況報告及び課題解決に向けた助言」をあい・ぽーとステーション代表理事・大日向雅美が担当しました。

会場は開始前から大勢の支援者さんたちで熱気にあふれていました。一部ではまず、『柿の

木レストラン』という手遊びでウォーミングアップをした後、『はらぺこあおむし』の絵本を見ながらCDから流れてくる心地よいリズムにのったお話を聞きました。その後「キャベツの中からあおむしでたよー」の手遊び、イスを片つけて「あるいていこう」の歌にあわせた体を使った遊びなど、広い部屋の中を闊歩しながら、笑い声が絶えない楽しい時間を過ごしました。「はらぺこあおむし」の話から、手遊び、体を使ったあそび、造形まで一連のつながりをもった様々な遊びを、実際に手や体を使って体験する中で、保育に必要なたくさんさんのヒントをいただきました。星保育士は、参加された皆さんが漠然と話を聞いているのではなく、遊びを紹介するたびに「この遊び〇才児にいいわね」と、場面を想定しながら聞いてくださっていたので提供がしやすかった、又活動を熱心にされているせいか、一つの情報を広く活用しようという姿勢がみられた、と浦安の皆さんの姿勢に感服していました。

二部では、まず大日向先生が話された一つの体験談から、支援者としての心持ちについての意見が交わされました。その後、活動中の困難事例などについて、アドバイスをいただきました。

仲間との再会で刺激を受け、更に各講師の話から活動の活力を与えられ、充実した足取りで帰路に付かれと思います。

▼大盛り上がりの研修風景。



支援者の仲間の活動を

紹介します！

NOBODY'S PERFECT プログラム開催中の保育

今回は、千代田区児童・家庭支援センター主宰による「Nobody's Perfect」プログラム開催中の保育の現場を見学させていただきました。このプログラムは五月十日から六月二十八日までの毎週木曜日八回にわたって行われ、参加中保育を希望する保護者のための一時保育で千代田区の支援者十名と港区の支援者六名の方々が活動しています。

おじやましたのはプログラムスタートの初日、五月十日、十六名の支援者が勢ぞろいする中、児童家庭支援センターの能美様より「このプログラムに参加される方は子どもを預けるのも初めてという方が多く、お預かりするときは大丈夫ですよ、お帰りのときには、たとえお子さんが大泣きしたとしても少しでも良かったことをたくさん伝えてあげて下さい」というお話がありました。

やがて次々とお母さんたちがお子さんを預けにいらつしやいましたが、今日は欠席者もいたためお預かりしたのは一才前後の子ども十三名、支援者の皆さんは一人ひとりをしつかりと抱き上げ、マンツーマンでお世話をしていました。数人の子どもたちは用意されたおもちゃで遊び始めましたが、やはりお母さんの姿が見えなくなると同時に泣き出す子どもが増え、一時大きな部屋の中は「ママを探し求める切ない

声」でいっぱいになりました。でも、皆さん落ち着いて、さりげなく色々なもので子どもをの気を引きつけたり、軽く身体を揺らしてあやしたり、バックアップ研修で覚えた歌を歌ってあげたりと様々な工夫を凝らして対処していました。泣き続けている子どもを抱えている人には皆で交代してあげたり、スタッフの方もいつまでも泣き止まない子どもには近くの公園へ連れ出して気分を変えさせてみたりなど、臨機応変に支援者に声をかけていました。また、このプログラムの約二ヶ月の間に、ハイハイしかできなかった子が歩けるようになるなど、色々な面で成長の様子を垣間見ることができ、とても楽しみなですよと話して下さいました。

そして、いよいよ今日のプログラムを終えたお母さんたちがちよつと不安げな様子で迎えに戻り、我が子と再会です。涙が枯れるほど泣き続けていた子を担当していた支援者の方は、次回も安心して預けられるように、せめてお母さんが迎えにきたとき泣いていない姿を見せたいと最後まで心を砕いていました。それぞれの子どもを担当した支援者から子どもの様子を聞いて、お母さんたちもほつとした表情です。保育開始前にスタッフの方から支援者に配られた紙に書かれていた「このプログラムは参加されるお母さまやお子さんが、安全で楽しい保育室だと感じれば感じるほど、大きな学びにつながるため、保育はとても大切な時間となります」というメッセージを実感したひとときでした。

NOBODY'S PERFECT プログラムとは？

Nobody's Perfect (NP)は、カナダ生まれの子育て中の親支援プログラムです。〇歳から五歳までの子どもを持つ親を対象に、参加者がそれぞれに抱えている悩みや関心のあることをグループで出し合って話し合いながら、必要に応じてテキストを参照して、自分にあった子育ての仕方を学ぶものであり、同年齢の子どもを持ち、共通の興味や関心を持つ人々と出会うことができる安心できる場を親に提供するプログラムです。(畑村)



千代田区バックアップ

五月八日(火)、第三回千代田区バックアップ研修が行われました。今回の研修は二部構成で行われました。はじめに、子育てひろば「あい・ぽー」と一時保育主任 櫻井薫講師が「手遊び・エプロンシアターなどというテーマで、現場で使える遊びをいくつか紹介しました。まず、ペーパーを使ったヒヨコのお話と、エプロンシアターを実演しました。ペーパーは紙人形劇のことです。お話の合間にはお話に聞き入っている子ども(今回は支援者)にうまくお話の世界に集中させる語りかけがされていました。手遊びは「こぶためきつね」「パンダうさぎコアラ」「グーチョキパー」の三種類を三グループに分かれて発表しました。意外に激しい動きに皆盛り上がりました。「自分の知っている手遊びを教えてください」支援者の方もいらつしやいました。最後は「大きな力」ならぬ「大きな大根」のペーパーサートを参加者みんなでかけ声をかけながら引つ「抜いて「おしまい」！」ペーパーサートの材料についても関心が集まりました。今回は、ネル素材を使ったものだそうです。手作りキットなども購入することができそうです。

後半は、大日向代表から、児童文化研究所の永田桂子氏の「子どもの発達にあわせたおもちゃ」「母の友」〇七年一月号掲載)から、よいおもちゃとはということについての紹介がありました。次に、伊藤雅子氏の「不幸な人でない親切にできないのか」「母の友」よりというエッセイを題材として支援マインドについて皆で考えました。「困難を抱えた人にシンパシーを寄せて一生懸命援助する。その心はあくまで純粋なのだが、ふと自分の中に独善や優越意識の影を見てたじろいだり、関係性の歪みを怖れて、立ち止まる人が少なくない。誠実で、繊細な人ほど。(抜粋)」支援の場面でもこうした複雑な思いを抱える場面が出てくると思います。そういった思いを話したり、共感したりする場の必要性、バックアップ研修の意義を改めて感じた研修でした。



マザーズハローワーク東京に おじゃましました。



昨年度、子育てをしながら就職を希望している方に対して、子ども連れでも来所しやすい環境を整備し、個々の希望やニーズに応じたきめ細かな就職支援を行うために全国十二の都市にオープンしたのがマザーズハローワークです。

多様な働き方、多様なライフスタイルが認められてきた昨今、様々なニーズに就いて就職支援サービスも新しい試みに取り組み始めています。今回はそんな社会資源の一つ、渋谷区にあるマザーズハローワーク東京におじゃましてお話を伺ってきました。

マザーズハローワーク東京は渋谷駅に近く、アクセスのいい場所にあります。朝、開所して間もない時間におじゃましましたが、すでに赤ちゃんを抱いたお母さんの姿がちらほら集まっていました。

施設内はマザーズコーナー・レディスコーナーに分かれていて全体的にベビーカーを移動しやすいゆったりとした作りとなっています。入り口を入ってすぐの場所には、子育て中の方からのニーズが高い求人への張り出しや、勤務時間や希望職種によって整理された求人のフアイリング、子育て中の母親にとって一番の気がかりとなると思われる、身近な保育施設などのサポート情報を調べられる情報コーナーがありました。そして隣にはチャイルドコーナーが設けられていました。そこでは子どもたちが楽しそうに遊んでいます。子どもの遊

べるスペースのすぐ脇にベビーカーを横に寄せて求人情報を検索している女性がいまいた。チャイルドコーナーの担当スタッフの方がコーナーを利用する保護者と一緒にさりげなく子どもたちの見守りをしています。隣接の相談コーナーでは、子どもを抱っこしながら専門スタッフと相談をしている女性の姿もありました。ここでは、利用者の希望により、予約制・担当者制の相談もできるということで、信頼関係を築きながら一人ひとりをサポートする工夫がなされていました。求人情報検索機も使わせていただきました。子育て中の方のニーズが高い(残業が少ない、育児休業取得実績のある企業などの)求人をピックアップして検索することができましたが、これは施設独自の機能とのことでした。その他、パソコン講習や面接突破セミナーなどの企画もされていて、それらのセミナー開催のお知らせなどの情報も得ることが出来ます。

マザーズハローワーク東京は、「マザーズ&レディスのハローワーク」と謳い、子育て中の方に限らず、すべての女性の就職を支援しています。一日に二百名ほどの利用があるそうです。

求職登録をされた方のうち、子育て中の方(二十歳未満のお子さんのいる方)の占める割合は約四割ということでした。お子さんの年齢(末子)は〇〜三歳が約五割を占め、六歳以下で約七割です。このため、保育の手配が必要な場合が多く、保育情報のガイドブックや担当の専門スタッフのバックアップを得ながら保育所探しに取り組む例が多いということです。

子育てをしながら再就職を希望する方が多いという現状から、今年度、マザーズハローワークが設置されていない三十六県の中核となる都市の公共職業安定所に、同じ機能を持つマザーズサロンを順次設置し、子育てをしながら就職を希望している方に対する再就職支援の充実を図ることが厚生労働省より発表されました。

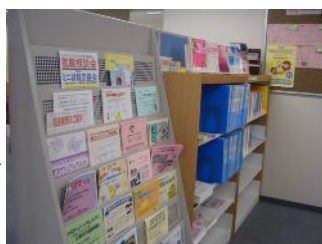
浦安市では、「マザーズハローワークちば」、札幌市では「マザーズハローワーク札幌」、千代田区では今回ご紹介した「マザーズハローワーク東京」が最寄りの施設となります。

多様なライフスタイルや働き方に、企業側も柔軟に対応できる仕組みづくりのため、徐々にではありますが意識改革が進んでいます。就職支援のサポートにおいてもこうした様々なニーズに柔軟に対応えられるシステムづくりに取り組み始めているということも、今回、おじゃまして実感できました。

←チャイルドコーナーには子どもを見守りながらパソコン検索ができるようにレイアウトされている。貸し出し用ベビーカーも設置されていた。



保育情報を調べられるコーナー → その他両立支援に関する書籍や、社会資源の情報などがレイアウトされている。



* 声のひろば *

活動する中で感じた思い、悩みやぼつと心が温くなった出来事、日常生活の中から感じたことなど、皆さんの声をお寄せください。

内容充実に努めます！

調べてほしい社会資源や時事情報、その他こんなテーマの記事が読みたいなどリクエストをどんどんお寄せください！ ろいまたが皆さんの役立つ情報発信のツールになれるよう、工夫していきたいと思ひます。

一月から週に一度位行っている市の子育て支援センターでのこと。その日はお天気も良く、お母さん達も多かった。そんな中「下の子どもが生まれてからどうも素直でなくなつて」と言うお母さんに「お兄ちゃんと遊んであげて」と私はスヤスヤ眠っている生後四カ月のA君をそつと受け取った。「下に寝かせても大丈夫だと思います。」とお母さんは言い、お兄ちゃんとパズルを始めた。私が赤ちゃんルームへ向かったら三歳のBくんが「ボクも行く」とついて来た。B君のお母さんは下の子と遊んでいた。A君を寝かせた後、B君が、「本を読んで。」と一冊の絵本を持ってきた。一度読むと「また読んで。」と結局三回読んだ時、眠っていたA君が目を開きました。泣くかな？と心配しつつ抱き上げて声をかけると、ニコニコと笑ったのでほつと安心。しばらくしてA君のお母さんの所へ戻るとパズルは殆ど完成してA君のお兄ちゃんの満足そうな顔、A君もお母さんのところへニコニコ顔で戻って行った。

(札幌市 田部井 玲子さん)

昨年度、NPO法人あいぽーとステーションの絶大なご支援をいただき、第一回目の子育て・家族支援者養成講座を実施することが出来ました。

当初、五十人の定員が埋まるかどうか心配していましたが、最終的には五十三名の方々にご参加いただき、十月から十二月のはじめまでの間、大変中身の濃い講座が行なわれました。

私も、毎回、講座開催の日には顔を出し、講師のお話や参加者の方々の様子を拝見させていただきましたが、時には、ご自分の子育てや考え方を否定され、戸惑いを受けながらも、それはそれは真剣に講座に聞き入っていました。

そして、十二月六日の認定式で、涙ながらに、大日向先生から認定証を受け取る皆さんの姿がいまだに目に焼きついています。

現在、浦安市は、新町のマンション開発に伴う若い世代の方々の転入により、年々お子さんの数は増えていますが、それと反比例するかのよう、地域の子育て力は低下しており、周りに子育ての手伝いや相談できる人がいないという話をよく耳にします。

我が浦安にとって、今まさに、地域の子育て力を向上していくことが大きな課題であり、私は、地域の中で子育て

浦安市こども部 算次長からこの養成講座に対する思いを綴っていただきました。

支援者を養成するこの講座の果たすべき役割は、非常に大きいものと考えています。

そのため、今年度は、昨年度と同様、三級の講座を開催するとともに、秋には、病後児保育や宿泊を伴う保育が出来る支援者を養成していけるよう、また、市長が掲げるケアプラン制度の実現のため、ケアマネジャーの養成に向け、二級の子育て・家族支援者養成講座を開催したいと考えています。

地域での病後児保育や宿泊を伴う保育の実施には、まだまだ多くの環境整備が必要です。また、ケアプラン制度についても、どのような形で進めていくのか、本格的な検討はこれからとなっています。

でも、バックアップ講座で熱心に話している皆さんの顔、にこやかに皆さんを見ている大日向先生の顔を思い浮かべますと、不思議に、きつと出来るだろうと思えてしまいます。

十九年度も、大日向先生を初めとするスタッフの方々や昨年度三級講座に参加していただいた皆さん、そして、これから仲間に入ってくるだろう新しい受講者の方々とスクラムを組んで、地域の子育て支援のため一生懸命取り組みたいと思います。

千代田区

第四回 バックアップ研修のお知らせ

第四回の千代田区 子育て・家族支援者養成講座受講修了生対象、バックアップ研修を左記の通り開催致します。

日時平成十九年六月十一日(月)

午前十一時から十二時三十分

場所千代田区役所新庁舎404号会議室

内容二部構成

I. 「手遊び・絵本・ペープサートなど」

講師 子育てひろば「あい・ぽーと」

保育士 星 義輝

II. 「活動状況報告及び課題解決に向けた助言」

講師 あい・ぽーとステーション代表理事

大日向 雅美

ご出席の方は六月一日(金)までにあい・ぽーとステーション事務局(Tel:03-6657-8539)までお申込みください。

浦安市

第四回 バックアップ研修のお知らせ

第四回の浦安市 子育て・家族支援者養成講座受講修了生対象、バックアップ研修を左記の通り開催致します。

日時平成十九年六月二十七日(水)

午前十時から十一時三十分

場所浦安市文化会館 大会議室

(保育室文化会館 第一練習室)

内容「活動状況報告及び課題解決に向けた助言」

講師 あい・ぽーとステーション代表理事

大日向 雅美

ご出席の方は六月二十日(水)までに浦安市こども家庭課子育て係(Tel:047-351-1111 FAX:047-304-1505)までお申込みください。

* 今月のオススメ本 *

「集団ってなんだろう」

森上史朗、今井和子編著 ミルヴァ書房発行

この本は保育の専門家が実践事例を持ち寄り検討しあって、保育における「人と人とのかわり」の発達を追及した本です。保育における集団は「トーフ集団」(すりつぶされた画一集団)ではなく「ナットウ集団」(生きた、混ぜると糸を引き合うよう関係が形成されている集団)でなければならない、つまり一人ひとりの個性を大切にしないと、集団は子どもを成長させるものではなくります。本書は人との豊かなかわりの中ではぐまれ育った子どもの実践例が詳しく描かれ、子どもの視座に立つことの大切さを深く考えさせられる、非常に読み応えのある一冊です。

(あい・ぽーとステーション理事 森上史朗先生の他、養成講座を担当して下さった中村証子先生も執筆されています)

* 事務局から *

浦安市講座が開講しました。講座中の保育に一期生の支援者の顔ぶれがあり嬉しくなりました。これから誕生する二期生のためにも、皆さん、先輩としてさらなる活躍を期待しています！
(小貫)

新緑に心洗われ、風薫る5月、浦安市の養成講座が開講し、また支援者の輪が広がるのが楽しみです。

砂場に散った桜の花びらをバケツに集める幼子の手、たんぽぽを摘んで握りしめる幼子の手、この手の未来が平和でありますようにと祈ります。
(後藤)

色とりどりの花たちが胸を張って咲いているように見えます。散歩している親子の姿も多くなりました。ついつい花と親子に見とれてしまいます。
(美馬)